

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	IDを適用した看護師育成支援eラーニングコンテンツの開発と適用		
法人名	学校法人西野学園		
学校名	札幌医療科学専門学校		
代表者	理事長 前鼻 英蔵	担当者 連絡先	市川 貴紀 TEL:011-616-2234

1. 事業の概要

就業しながら看護師を目指す看護通信教育課程は、放送大学の併修とテキスト中心の個人学習が基本となるため、モチベーションや学習の継続に困難を伴う。

本事業では、こうした問題を解決するために、看護通信教育課程で学ぶ准看護師のための看護師育成支援eラーニングコンテンツを開発した。

開発に先駆け、看護師育成支援を目的としたeラーニングについての実態調査を実施した。そして、その結果を踏まえ、学習コンテンツの開発を行い、通信教育課程の対象者に対し開発した講座を実施した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

働きながら学ぶ通信教育課程では、放送大学の講座の履修とレポート提出、テキストを中心とした個人学習が基本となるため、実務と学習の両立やモチベーションの維持、さらに家庭を持っている人が多いため家事との両立などが課題となる。また、同じ仲間が近隣にいない場合が多く、独学で学習を進めることが基本となる。准看護師にとっては、これらの負担が学習継続の障害となっている。

本事業では、このような問題を解決するために、「看護eラーニング」および「国家試験対策CBT」の2つのeラーニングコンテンツを中核とする講座を開発した。

看護科の学生は、准看護師資格を有する前提で、2年間で看護師資格の取得を目指す。その際に困難性が高い国家試験合格を達成するためには、正規のカリキュラム内容に、今回の様な学習に臨場感のある補助講座が必要である。そこで、看護科カリキュラムの中でも最も基本に位置づけられる「基礎看護学」と「成人看護学」を補強する全145時間の講座を設定した。この講座は、テキストを使った学習およびeラーニングの組み合わせを基本の構成として、スクーリングと国家試験対策のためのCBTを付加したものである。

「看護eラーニング」実施後のアンケート結果では、成人看護学講座の「eラン小説 重要事項家族『名瀬葉家の人々』」や「ホルモン劇場」のように、受講者に好印象を与え、モチベーションを高めるようなコンテンツであることが確認できた。他のコンテンツと組み合わせることで、受講者がより積極的に学習できるようなコンテンツに仕上げることも可能である。

一方、「国家試験対策CBT」実施後の利用状況の分析結果からは、受講者が忙しい中でも時間を見つけて積極的に取り組む姿勢を引き出すことができたことを確認した。このことは、事後アンケートの感想欄に記述された回答からもわかる。

以上の結果から、目的とした学習時間や場所の自由度が高く、モチベーションの喚起や維持に役立つeラーニングの開発を達成できたと考えられる。

②事業により得られた成果

現在、看護師養成を含む厚生労働大臣認可学科は、養成指定規則上の制約により、正規課程だけでなく通信教育課程においても、eラーニングを活用した授業を単位として認定できない。しかしながら、画像や動画・音声などのメディアを駆使したeラーニングは、紙上だけで理解するより理解度を深めることができる点で、通常の授業と同程度の学習効果をあげることができる。すなわち、学習する時間や場所への自由度が高いという点で、働きながら学習を進めなければならない状況におかれている准看護師にとって、効果的かつ効率的な学習環境を提供できる。

本事業では、このような強みを有するeラーニングを用い、看護師を目指す准看護師の学習を支援する「看護eラーニング」と「国家試験CBT」のコンテンツの開発を行ったが、十分にモチベーションの喚起や維持に役立てることができた。

「看護eラーニング」実施後のアンケート結果では、成人看護学講座の「eラン小説 重要事項家族『名瀬葉家の人々』」や「ホルモン劇場」のように、受講者に好印象を与え、モチベーションを高めるようなコンテンツの形が創りだせたと考えている。

一方、「国家試験対策CBT」の利用状況の分析結果では、昼や夕方の休憩時間中にも時間を作って学習に当てていることが確認でき、また、利用1回当たりでは短時間の学習が多いことから、忙しい中でも時間をみつけて学習に取り組んでいる様子が窺えた。このように、受講者が忙しい中でも時間を見つけて積極的に取り組む姿勢を引き出すことができる学習ツールを提供できたことは、大きな成果であったと考えられる。

しかしながら、国家試験CBTの利用面での効果は、国家試験合格率の変化によって評価する必要がある。本事業の終了日程の関係で、その結果を報告することはできないことに憂慮をしているが、学内において独自に評価を行った上で今後の取り組みに生かす予定である。

また、看護師育成のeラーニングの実態調査においては、専門学校・大学・病院などが、モチベーションを高めるための工夫をこらした効果的なコンテンツの作成に取り組んでいる様子が明らかになった。こうした看護師育成eラーニングの取り組みを一覧に纏めることができたことも、新たに看護師育成eラーニングの導入の検討をされる上での参考となり、成果の一つではないかと考えられる。

③今後の活用

事業の成果をもとに、モチベーションの喚起・維持に役立つeラーニング補助教材として、更なる改善・充実化を図り、活用していく。具体的には、本校の通信教育課程の学生全員に対して、本格的な利用を促す。

④次年度以降における課題・展開

開発した教育プログラムは、実施委員各校を中心に実施・改善を継続していく。また、専門学校、民間教育機関等に周知を図るとともに、普及促進を目指した学校間連携モデルを構築するための活動を推進する意向がある。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

発行した。

②カリキュラムの内容

カリキュラムは、以下に示す構成で、総時間数は145時間である。

- ①スクーリング(導入講座) : 本講座の狙い、講座の内容と学習の進め方(6時間)
- ②基礎看護学 : テキストを利用した自宅での学習(45時間)
eラーニング/CBTでの学習(6時間)
- ③成人看護学 : テキストを利用した自宅での学習(45時間)
eラーニング/CBTでの学習(6時間)
- ④スクーリング(進捗確認) : 疑問点の解消、学習効果の確認・カウンセリング(6時間)
- ⑤国家試験対策 : 国家試験過去問題トレーニング、国家試験模擬テスト(25時間)
- ⑥スクーリング(修了講座) : 学習内容の振り返り、学習効果の確認・カウンセリング(6時間)

看護科の学生は、准看護師資格を有する前提で、2年間で看護師資格の取得を目指す。その際に困難性が高い国家試験合格を達成するためには、正規のカリキュラム内容に、学習に臨場感のある補助講座が必要である。

そこで、看護科カリキュラムの中で最も基本に位置づけられる「基礎看護学」と「成人看護学」を補強する講座を設定した。この講座は、テキストを使った学習およびeラーニングの組み合わせを基本の構成として、スクーリングと国家試験対策のためのCBTを付加したものである。

③講座の実施

本事業においては、札幌医療科学専門学校の看護科2年課程(通信制)1年生44名を対象に、前項②に示すカリキュラム全145時間の講座を実施した。

「看護eラーニング」は、平成21年1月24日(土)～2月14日(土)の約3週間にわたり利用状況の調査を実施し、事後アンケートによる評価を行った。看護eラーニングで実施したコンテンツは、基礎看護学12コース、成人看護学6コースの合計18コースであった。「国家試験CBT」は、平成20年12月25日(木)～平成21年2月9日(月)にわたり、利用状況を調査し、事後アンケートによる評価を行った。

④支援対象者(受講者)の状況

受講者44名の属性は、以下に示す通りであった。

<年齢>

31歳～35歳が11名(25.0%)、36歳～40歳が10名(22.7%)、41歳～45歳が11名(25.0%)、46歳～50歳が8名(18.2%)であり、31歳～50歳が9割を占めていた。51歳以上は4名で、最年長は56歳、最年少は32歳、平均年齢は41.3歳であった。

<性別>

男性が5名(11.4%)に対して、女性は39名(88.6%)と大半を占めた。

<居住区>

石狩支庁が15名(34.1%)と最も多く、網走支庁8名(18.2%)、十勝支庁6名(13.6%)と続く。宮城県在住の学生も1名含まれた。